

バス停タイムス

2013年 2月 28日 No.5

発行者 成田隆浩

編集者 教宣部

JR東海労働組合新幹線地方本部

交番検査、仕業検査体制の見直しに反対しよう！ 根拠のない要員削減だ！撤回しろ！

新幹線大井基地で働く皆さん！おはようございます。

JR東海は昨年12月25日、突如として「交番検査・仕業検査体制の見直し」を提案してきました。これは『交番検査施行番線を第一検修庫の7番線～9番線に集約することに伴い、3班分の車軸探傷作業を1・2班の軸探担当が行う体制とする』また『仕業検査施行番線が第二検修庫の1番線～6番線、第一検修庫の10番線～12番線となることに伴い、仕業検査班を第二検修庫に2班、第一検修庫に1班の体制にする』ということで、要員を交番検査で1名（軸探担当）、仕業検査で8名（1班削減に伴う）をそれぞれ削減するというものです。実施は3月16日のダイヤ改正からとしています。

しかし、なぜ要員を削減するのか明確な根拠がありません。業務量が減るとか、機械化や近代化をするとか、一切ありません。

私たちは“人減らしありき”の検修体制見直しに反対です！

健康と安全を損なう見直しは認められない！

仕業検査は4班から3班体制になると、単純に考えても1班分の作業量を3班に新たに負わせることになり、これまでより負担が増えることは明らかです。会社は『手待ち時間を切り詰めると可能だ』と言っています。しかし、手待ち時間はこれからの作業の打ち合わせや、作業後の後処理など、作業間の調整に必要な時間で、とても貴重です。このような現場の実情を無視して、休憩時間以外は“しゃかりき”に働け！と言っているようなものです。皆さんどう思いますか？

これでは、疲労がかさみ集中力が欠けて、思わぬケガや車両の不具合を見逃すなどのエラーを発生させかねません。健康と安全が損なわれることは断じて認められません！

検修庫の中は危険がいっぱい！

検修庫は老朽化が著しく、サービスデッキのコンクリートの凸凹、ピット内のヘドロのぬめり、グレーチング（排水溝の金網）の凸凹、灯具の不良、不要となった旧 300 系の設備が点在するなど、作業中の安全確保に不安を感じています。第二検修庫は築 40 年近くとなり、なおさらです。このような設備の中で、疲労した状態で動いていると、いつ傷害事故に結び付くか分かりません。

私たちは、検修庫の老朽化対策を指摘していますがほとんどが改善されていません。検修体制の見直しより先にやるべきことがあるのではないのでしょうか。

関連会社も大幅な体制見直しで混乱！？

交検と仕業の検修体制見直しに伴い、SEKでも要員削減や作業の変更が発生するといわれています。また、SMTも大幅な体制見直しがあるようです。特に要員配置の見直し、作業の流れの変更、勤務時間の変更とそれに伴う手当の削減が心配されていると聞きます。さらには通勤バスも勤務時間の変更により不便が感じられるなど、多くの問題があるようです。

私たちは、JR東海会社にも関連することでもあり、訴えるべきことは訴えていきたいと思えます。是非ご意見をください。

いつ言うの？ 今でしょう！！

新幹線地本は検査体制の見直しを許さず、組合員・現場で働く全ての社員の労働条件改善のために職場から声を出していきます。

大井基地で働く皆さん！労働条件・職場環境を改善するため共に声を大きくあげましょう。JR東海労新幹線地本は皆さんと共に取り組みを進めます。



安全で明るく、健康で働きやすい職場環境を目指し、共に職場から声を出しましょう！